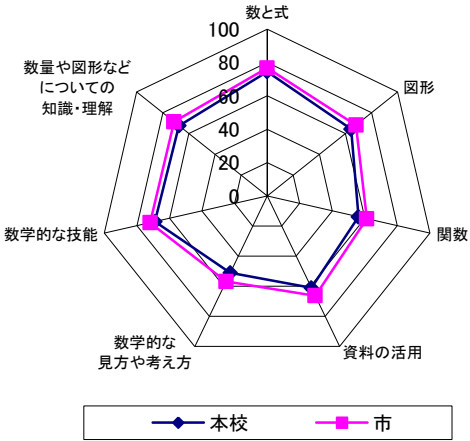


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	74.6	76.7	72.6
	図形	64.3	68.1	63.8
	関数	56.1	61.2	54.4
	資料の活用	61.1	66.3	55.4
観点別	数学的な見方や考え方	51.1	56.8	50.8
	数学的な技能	68.9	71.9	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	67.6	71.4	63.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	●市の正答率を2.1ポイント下回っている。 ・項目別でみると、分配法則を使った計算や乗法公式を使った因数分解など、市の平均を上回っているものもあった。平方根の大小の問題については、市の平均を下回っている。全体的にみると、計算問題では、正答率が市や全国の平均に近いものの知識・理解の問題は、市や全国の正答率を大幅に下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・単元ごとに、導入を工夫する。平方根の意味を丁寧に指導し、計算をするときに、意味を理解したうえで、反復練習する。 授業の時間に計算の復習をする時間を設けることやモジュール学習などで計算力を付けていきたい。
図形	●市の正答率を3.8ポイント下回っている。 ・昨年と比べると大幅に市の平均に近づいている。 ○項目別でみると、多角形の内角の和の求め方については、正答率が市の平均を上回っている。 ●相似な図形の性質から、辺の長さを求める問題では、市や全国の平均より大幅に下回っている。	・1年時の平面図形や空間図形、2年時の合同の証明の内容を確認し、相似の分野を学習させていく。また、相似の問題では、対応している辺や角が理解できていない。丁寧に図形を描いて、対応している部分を目で見てわかるようにしていくことを普段の授業から行っていきたい。
関数	●市の正答率を5.1ポイント下回っている。 ・xの2乗に比例する関数についての正答率が低い。1年時の反比例、2年時の1次関数についてもすべての問題の正答率が市の平均を下回っている。しかし、全国の平均を上回っている問題もある。	・関数の問題を解くときに、表やグラフを使った解き方を身に付けさせたい。表やグラフを使うことで、視覚的に捉えることが重要であることを伝えていきたい。また、変化の割合の問題の正答率も市の平均を下回っているため、2年時の学習を復習させ、生徒たちに思い出させたい。何度も同じ種類の問題を繰り返し解かせ、パターンを身に付けていく。
資料の活用	●市の正答率を5.2ポイント下回っている。 ・全国の正答率と比べるとすべてにおいて正答率を上回っている。 ●相対度数の問題では、市の正答率よりも6.4ポイントも下回っているため、相対度数の意味を忘れてしまっている生徒が多いことが予想される。	・相対度数の問題と確率の問題が別の問題と捉えている。 相対度数と確率の復習をし、関連させながら、問題を解くようにする。相対度数は小数で表すが、確率は分数で表す。相対度数の表し方と確率の表し方を丁寧に指導していく。